OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	変わる外国語教育 ： 画一教育からオーダーメイド教育へ
Author(s)	細谷, 行輝
Citation	サイバーメディア・フォーラム. 2012, 13, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/70331
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

巻　頭　言

変わる外国語教育　― 画一教育からオーダーメイド教育へ ―

サイバーメディアセンター
細谷 行輝

100 年後の外国語教育はどのような形になっているであろうか。1901 年元旦のとある新聞に 100 年後の予想が掲載されており、それに依ると、コミュニケーションが進化し、テレビ電話での意思疎通が可能となる（ほぼ実現している！）、また、コミュニケーション研究が飛躍的に進み、学校には英語科のみならず、獣語科が創設され、人間同士の意思疎通のみならず、獣との意思疎通が可能となる、とある。ペット時代とはいえ、後者はいくらなんでも荒唐無稽と笑えるが、この荒唐無稽を許した時代に精神の余裕すら感じられるのは独り筆者だけであろうか。

さて、2012 年の今、100 年後の外国語教育はどこへ向かうのであろうか。一般市民がその長短を正確に把捉しないまま、テレビがデジタル化されたと同様、現場の教師の好悪に関わらず、外国語教育の分野でも遅々とはしているがデジタル化の波が動き出そうとしている。そのキーワードが「画一教育からオーダーメイド教育へ！」である。

現在の大学教育では、学生個々人のニーズにあわせた教育を実施することは非常に困難である。しかしながら、教育のデジタル化により、デジタルの二大特性、すなわち、「データの共有とデータの再利用」を徹底的に進めることにより、教育にかける費用の大幅コストダウンのみならず、教育の質と効果を飛躍的に高めることが可能となる。デジタルは完全なコピーが可能であるため、ベースとなるデジタル教材を、再利用・再編集可能な形で多数作成すれば、これを教師皆が共有することにより、個々の教師の教育目的・教育方針に沿った部分教材（パーツ教材）作成にのみ時間とコストをかければ良いことになる。経費を提供する側も、教材を作る側も、無駄を大きく省くことが可能となり、画一教育からオーダーメイド教育へ、個々の学生の能力とペースに応じたデジタル教材の作成が容易となる。

また、WEB の特性を活かし、個々の学生の学習データを自動で収集することにより、そのデータを活かした客観的な個別教育プログラムが自動で生成され、生身の教師の分身として、バーチャルなデジタル先生が、「バーチャル家庭教師」となって、学習者個々人に向き合った、アナログ的な手厚い教育を実践することが可能となる。

翻って、大阪大学における外国語教育のデジタル化の現状と展望であるが、2000 年、サイバーメディアセンター設立時に、全国に先駆け、CALL 教室二室を導入し、爾来、他大学の後発 CALL システムに対して多くのノウハウを提供し続けている。従来の LL から CALL への転換を図り、二教室が四教室となり、現在は、高度外国語教育全国配信プロジェクトで導入された三教室を含めると、合計 7 教室が稼働している（ただし最後の三教室の維持管理体制がまだ整っていない）。このプロジェクトでは、その他、20 言語のコンテンツを作成し、さらには、大阪大学サイバーメディアセンターのマルチメディア言語教育研究部門が中心となり、5 年をかけて、「言語学習支援システム」の開発を行った。このシステムは外国語教育に特化した Learning Management System（LMS）であり、e-Learning でありながら教師に多くの負担を強いることなく「手厚い教育」を実現することを目的として開発された。また、学習者の自律学習（学生が主体的に学ぶ）や学習者個々人の弱点にあわせた教育を実現するための機能を搭載するなど、画期的な LMS であり、本システムを使用することで、これまでより更に効果的な e-Learning による外国語教育、外国語学習を実施することが可能である。無論、従来の e-Learning にありがちな放任ではなく、いつでもどこでも学習可能ではありながら、常時、チェック機能が働き、教育の質の保証を実現している。大阪大学の外国語教育は、100 年後に優れた評価を受けるべく、従来の LL 授業から CALL 授業へ、そして今、オーダーメイド教育を核とする e-Learning 授業（WEB 授業）へと変貌しつつある。